

新宮山彦ぐるーぷ第2332回

行仙宿の巡回整備

◇実施日 11月7日(木) 晴

◇参加者 沖崎吉信、湯川一郎、畑林秀味、松本吉殖、梶野照雄
5名

11月に入ってから気温が高く、天候不順が続いている。行仙宿補給路の橋台はほぼ完成したので、橋桁部分の木を伐りに向かった。小屋南の奥駆道沿いにある斜木を使おうと思い、湯川君に声をかけて手伝ってもらったつもりだったが、松本さんが煙突の改良工事を行うらしく、5人の参加となった。



プラーなどを降ろす

机の脚

気温は7℃

午前9時過ぎに登山口に着き、作ってきた机の脚とプラー、ワイヤー

ロープなどをモノレールに積んで小屋まで運んだ。チェーンソーなどは次に荷揚げする。小屋に着いて荷物を降ろしてすぐに引き返した。玄関わきの温度計は7℃でこの時期らしい気温だった。午前10時前に登山口に降り、直後に沖崎車が到着。碎石と松本さんに乗せて終点に向かった。終点で碎石やチェーンソーを降ろす。松本さんは先行して小屋に向かった。



碎石を降ろす

電源開発の寄贈品

机の脚取り付け

小屋に着くと電源開発寄贈の水、缶パン、ガスが置いてある。数日前に持ってきたようだ。松本、畑林さんは屋根に上がって工事を始める。湯川君に手伝ってもらって机の脚を取り付けた。3cmほど高く下の空間が広くなったので、もう一つケースが置ける。お昼前になり屋根上の二人に声をかけて昼食を摂る。煙突工事はシーリング材が取りにくくて難航しているようだ。昼食後、湯川君と二人で斜木を切る作業を始める。沖崎さん等は、補給路の岩を割りに向かった。



煙突改良作業



斜木を切る



やっと倒れた

木を切るの3分ほどで完了したが、上部の枝が倒れ掛かった木に引っかけられているので、プラーを使って引きずりおろした。プラーで一回に引ける長さは1m弱なので簡単には倒れない。5回方向を変えてようやくやく地上に落とすことができた。作業を始めてから1時間10分だった。湯川君はここで作業を終えて下山した。

地上に落ちた木の邪魔な部分を切つて、5mの長さの丸太を作る。丸太の一面を切つて平面を作つて作業終了。道具をまとめて小屋に戻つた。小屋に戻つてストーブに火を入れてみる。煙突の引きが悪く、室内に煙が充満してきた。外に出て煙突を確かめたが、一応煙は出ている。ストーブの上にあつた大きなヤカンを降ろしてみると、煙突とストーブが外れたままになっているのが見つかった。まだ火が燃えているのでストーブに触れることができない。火が小さくなるのを待つて煙突を無理やり突っ込んだ。

この接続部分は上下の移動範囲が小さすぎるので、次回に何らかの対

策をしたい。



一部を製材



煙突が外れていた



岩を割つた跡

道具類とザックを背負子に載せ、チェンソーを手に持つて下山した。途中の2カ所で岩を割つた跡が確認できた。

(記：梶野)

行動タイム

09:05 補給路登山口 09:11→09:37 行仙宿→09:42 コジマハウス
ス↓09:57 補給路登山口 10:05→10:20 コジマハウス→10:53 行
仙宿→12:38 斜木を切除 13:49→一部製材 14:52→15:02 行仙宿
小屋 15:44→15:55 コジマハウス→16:10 補給路登山口